



第80回大学箱根駅伝での校友会応援団(第5区にて)

日本大学
国際関係学部

校友会々報

第35号

静岡県三島市文教町 2-31-145

日本大学国際関係学部

校友会

平成十六年度

常任幹事会・幹事会開催

◎常任幹事会

平成十六年七月十日(土)十六時から、三島グランドホテルにおいて開催された。

柴田正会長挨拶のあと、田中由雄幹事長及び野田正人常任幹事会計担当から幹事会への議事等について説明があり、各項目毎詳細にわたり審議された。渡辺洋子副会長から桜栄会会長に板垣和代氏が就任したとの報告があった。柴田正会長から桜栄会役員交代もあり、小椋貞夫副会長を顧問に、渡辺洋子副会長・岩崎雄常任幹事・中濱卓弥幹事を参与に、露木ひろみ幹事を常任幹事に推薦したいとの提案があり了承された。

◎幹事会

平成十六年七月十日(土)十七時から、常任幹事会に引き続いて開催された。久保田博明常任幹事の司会で進行され、柴田正会長挨拶の後、議長団・書記が選出された。議長には弓場重明常任理事、副議長には瀬川宏幹事、書記には山瀬匠常任幹事がそれぞれ選出され、次の議事が審議された。

- 一、平成十五年度事業報告
- 一、平成十五年度決算報告
- 一、監査報告
- 一、平成十六年度事業計画(案)
- 一、平成十六年度予算(案)
- 一、総会の件
- 一、本部校友会報告
- 一、各科活動報告

一、その他

田中由雄幹事長から、平成十五年度事業報告がなされ、続いて平成十五年度決算報告が野田正人常任幹事会計担当から報告、柴谷徳昭・宮川守會計監査の両氏欠席のため田中由雄幹事長から監査報告があり、それぞれ承認された。

続いて平成十六年度事業計画(案)については田中由雄幹事長から、また平成十六年度予算(案)については野田正人常任幹事会計担当から提案され、審議の結果両議案とも承認された。

総会の件については、田中由雄幹事長から前議案の平成十六年度事業計画(案)で十二月三日(水)に開催することで承認を受けましたが、本年度の学部祭期間が十月三十日(土)から十一月二日(月)の三日間となるのをうけ、例年どおり十一月三日(水)に開催するか、或いは会員の学部祭参加を目的とした開催日にするかが提案され、審議の結果十月三十日(土)十六時から開催することで承認された。

本部校友会報告については、柴田正会長から本部主催の年間会議報告並びに役員及び会員の本部校友会正会員への加入促進の協力がなされた。

各科校友会報告では、渡辺洋子副会長から桜栄会長が本年度から板垣和代幹事が就任したとの報告があり、閉会とした。

大学を取巻く状況の変化と 本学部の取組み



国際関係学部長

佐藤 三武朗

校友の皆様におかれましては、ご清栄のことと存じます。

月日の巡るのは実に早いものです。『時間よ、止まれ』と叫びたくなるほどです。大学を巡る状況の変化があまりにも目覚ましいからです。実社会で活躍する校友の皆様におかれましては、同様の考えを持っておられるのではないかと思います。

教育環境ばかりでなく、昨今の日本の社会情勢も大きく変わっています。改革、変革という言葉がかしこに見受けられます。実際、改革に向けたダイナミックな動きが散見できます。私にとって、このことは嬉しいことです。日本がアジアで一人勝ちしていた時代が終焉し、競争原理の働く時代に突入しましたから、私たちもまた変わらなければならぬと考えているからです。

日本が安穩として、改革の手をゆるめている間に、世界が様変わりしてしまつたのです。どの金属も長い間には疲労をおこすよう

に、社会の組織や意識も時代の変化につれて、時代錯誤的なものが目立つようになります。これは世の常のようです。従つて、これからは生き残りを賭けた戦いの日々となることは必定でしょう。

大学にとって大きな課題は二つあります。一つは少子化です。勝ち組、負け組がはっきりするほどに、大学は色分けされ始めました。全入時代という聞きなれない言葉が最近では頻繁に使用されます。これからは英知を結集し、一丸となつて勝ち残つてゆく努力をしなければならぬと思います。

二つ目は、教育経営についてです。コーポレート・ガバナンスという言葉があるように、企業だけでなく教育もまた経営の概念を取り入れなければなりません。

文部科学省の規制緩和政策によつて、教育を取巻く状況が一変しました。大学に限らず、どの教育機関も自助努力なしには経営が立ち行かなくなりました。そこ

へ来て、国立・公立大学の独立法人化が実施に移されました。さあ、大変です。これからは同じ土俵で、本学部も勝負をすることになります。

そこで、私は学部長として、二つのことをバランスよく実施しようと考えました。一つは、校友や地域との連携です。二つ目は、グローバル化に伴うアジア諸国の大学との連携です。『三島で、世界を学ぼう』というキャッチフレーズで北京大学とキョニンビ大から先生をお招きして、三島で講義をして頂いています。

学生、校友、教職員が三位一体となつて、大学を盛り立てる時代となりました。そこで、校友の皆様におかれましては、以前にも増して学部に関心を持つて頂きたいと思ひます。もちろん、皆様の要望に応えられるような学部でなければなりません。私自身、全力を尽くして環境の整備に努力する覚悟です。後は、皆様の協力を得て、大学をガバナンスとして捉え、皆様はもろんのこと、地域住民や企業にも魅力的な大学にしたいと考えます。皆様におかれましては、大学を育てて行こうというお気持ちを持つて頂きたいと思ひます。

校友の皆様のご支援に期待すると共に、平素からのご理解に心から感謝申し上げます。

更なる発展のために



国際関係学部事務局長

鈴木 弘文

国際関係学部長校友会の皆様方には、ご健勝にて、ご活躍のことと存じます。日頃は、本学部発展のためにご尽力賜りまして心より感謝いたしております。

現在、国際関係学部は、佐藤三武朗学部長のもとで、より良い環境づくりのため、教職員一丸となり、各種計画の実現に向けて邁進しております。今年七月には、学生および教職員の憩いの場として十五号館六階に多目的ホールを開設いたしました。

通常はティールームとして開放し、午後五時以降は、ビール等も販売しております。勿論、校友の皆様方もご利用いただけます。また、多目的ホールですので、講演会やパーティー会場としても利用でき、低料金で一般開放もいたしております。六階からの富士山を望む大パノラマは大変見応えがあります。

昨年度キャンパス内に開設いたしましたLTC (Language Training Center) も順調に進んでおり、今年度からは、英語講座以外に、中国語講座・韓国語講座も開設し、市民の

方々が約二七〇名、また、各種エクステンション講座にも昨年度約三七〇名が受講されました。開かれた大学づくりのため、今後も更なる充実を目指し、様々な事業を展開していく予定であります。

本学部では、教育とスポーツの両面を目指し、教育はもとよりスポーツ強化推進のために野球部および陸上競技部を中心に各選手の育成に力を注いでいます。今年五月には、野球部が静岡学生野球春季リーグで、三季ぶり二度目の優勝を果しました。続く東海地区大会では惜敗し、神宮大会への切符を逃してしまいました。が、確かな手応えを感じ、部員達は、今度こそはと神宮を目指し日々練習に励んでおります。また、昨年度から陸上競技部(女子長距離部門)も発足し、十一月に大阪で開催されます全日本大学女子駅伝対抗選手権に必ず出場するという信念のもとに努力しております。更に陸上競技部(長距離部門)の男子学生も、正月に開催されます箱根駅伝出場に向け走り込みを続けています。今年は、是非

誇りと情熱



国際関係学部校友会会長
柴田 正



国際関係学部校友会副会長
商経科同窓会会長
山崎 光義

とも本学部から箱根駅伝の出場選手が出てもらいたいと願っています。各部の学生達は、全国大会出場に向け粉骨砕身で頑張っております。近い将来、校友の皆様方にその勇姿を必ずお見せできると確信しておりますので、今後とも変わらぬ温かいご声援をお願い申し上げます。

さて、日本大学校友会では、昨年度から準会員を対象に奨学金制度と診療費助成制度を導入しました。また、新たに平成十七年度からは、正会員を対象に校友会子女入学試験を実施することになりました。日本大学への入学を希望される校友子女のうち、二親等内直系血族（子・孫）を対象とした入学試験で、芸術学部・工学部・医学部・歯学部・松戸歯学部として国際関係学部・短期大学部（三島）で実施いたします。詳細につきましては、該当学部にお問い合わせください。

以上のように、大学といたしましては、少子化に伴う二〇〇七年からの大学全入時代の到来に備え、校友の皆様方との連携の中で様々なニーズにお応えできるよう鋭意検討を重ねてまいりたいと思っております。

つきましては、日本大学並びに国際関係学部の更なる発展のために、これからも変わらぬご助言・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

会員の皆様方には、お元気で御活躍のことと存じます。日頃の校友会活動への御尽力心より御礼申し上げます。

二〇〇四年一月二日、新春恒例の第八十回大学箱根駅伝が行われました。今年は、校友会あげての応援となり、各学部の校友会が各区の応援を受け持つこととなりました。国際関係学部校友会は六区を受け持ちました。小早川・相田両副会長、田中幹事長、弓馬常任幹事が中心となり、本部との連携を取って頂きました。二日の往路の最終五区にも応援に駆けつけました。三日の復路には、四氏の他に、沼津校友会の山口様、三島校友会の鈴木様はじめ、多数の校友の皆様方の御尽力により盛大にできましたこと、心より御礼申し上げます。結果は優勝は逃しましたが、シード権を獲得し、来年の優勝への望みを残しました。現在今回の第八十一回大会に向け、応援の準備が着々と進んで

おります。会員の皆様におかれましては、是非とも一人でも多くの方々にご参加頂ければと思います。

この原稿を書いている今、TVでは大学三大駅伝の一つである、『出雲駅伝』を中継しています。母校の伝統と走る選手に誇りと情熱を強く感じます。“頑張れ”と思わず画面にパワーを送ってしまいました。結果は、アンカーのサイモン選手の走り逆転優勝。二連覇達成となりました。三大大会制覇に良いスタートとなりました。

校友会活動としては、まだまだ沢山のことを進めていかなければなりません。が、会員、準会員の皆様方の力を合わせて頑張りたいと思っております。

卒業後、何かと多忙の毎日とは思いますが、校友会活動をご理解頂き、年一回ではあります。が、旧交を温め、新たな明日を目指すべく総会へお出掛け下さい。

新しい時代に向って

木犀の芳香漂う季節となり会員の皆様方にはご健勝で活躍のことと存じます。

国際関係学部校友会も発足加盟して三年を迎え柴田会長を中心に先輩役員の熱意に支えられながら順調に活動しております。が、国際関係学部同窓会も第一期を先頭に二十年を経過しました。「石の上にも三年」とか申しますが、この辺で国際関係校友会の先頭に立つてほしいと願っております。二十一世紀は君達の時代です。私達三島同窓会も全面的に協力して行く所存です。

さて、私達の商経科二部は学業としては募集中止となりましたが同窓会としては存続しております。が時代の流れで止むを得ないと思います。しかし、かつては商経科二部あつての三島学園であつたと云つても過言ではないと自負しております。

思い起せば昭和四十二、三、四年の頃、安藤学部長のもと諸

先生方にお世話になりつつ動乱の学園を死守した浪川さん岩崎さん山口さん野口さん達の日夜の献身的活躍も二部商経ならではの偉業でした。その直後入学した私は学年閉鎖で校門にバリケードが張りめぐらされ、軽部先生、岩城先生、服部先生にお世話になりながら毎日がジブリで移動授業の寺小屋学園でした。

その後学生会を引継いだ私達は全学連やカクマルのヘルメット学生と話合ったりもした。また、学園当局と話合ったり、校門開放に全力を注いで交渉し、開門にこぎつけることが出来ました。更に昼間部の学生と話し合い学生会を擁立させ学園当局に認知していただくことができた。その結果、一部二部学生が協力して学園体育祭を成功させ、次いで学園文化祭も開催にこぎつけ成功させることも出来ました。

私達は体育祭の応援の練習は夜間、鉄道のガード下でやったこ

中道の精神

国際関係学部校友会副会長
桜栄会会長

板垣 和代



と、文化祭の準備は授業が終ってから友達の家に行って夜遅くまでやった事など二部学生ならではの覇気と協力の玉ものとして今も心に残る三島学園の歴史的な思い出となっています。私は卒業の際大学より拝受した時計を見るたび安藤学部長と服部教授と学園生活を思い起しております。

現在、一部の短大はなくなつたものの国際関係学部大学院から付属中学校まで設置され中高大一貫教育の殿堂となり名実共に充実された学園となりました。

二部商経科はなくなつたものの日本大学国際関係学部は佐藤学部長の「伊豆学」を中心に地域と共にをスローガンに着実に前進しつつあることは喜ばしき次第であります。

最後になりますが、校友会本部として対応することになりました大学対抗箱根駅伝には会員並びにご家族の皆さんのご声援をお願いいたします。そして三島同窓生の皆さん、年一回の総会をぜひ覗いて見て下さい。



校友会の皆さまには、お健やかに御活躍のことと推察申し上げます。

桜栄会が校友会の下に参画されるようになりまして、三年目を迎えました。私はこの度桜栄会会長を引き受けて頂きました卒業科三期生の板垣と申します。卒業して、早四十余年を経て、時の流れの早さには日々驚くばかりの此の頃ですが、年を重ねると共に、日大通りの夕日に輝く銀杏並木の風景や、大学祭で賑わう校庭や、図書館へ通じる桜の老木の道等々が、しばしば思い出される様になりました事は、在りし日の青春時代の思い出をなつかしむことを喜びと感じるからなのでしょう。

桜栄会発足と共に会長を引き受けられ、多大な力で御尽力下さいました一期生の平井様、その後を引き継いで来られました二期生の渡辺様に心より感謝と御礼を申し上げます。この度三期生の私が微力ながら会長をお

務めさせて頂くことになり、七月に行なわれました校友会幹事に初めて出席させて頂きました。

三島に日本大学が開校された当時の諸先輩の方々が多勢出席されていて、元気はつらつと楽しげに旧交を温めている姿に感動致しました。日大が自分の故郷と同じく心の寄り所となっているからなのでしょう。日本大学の校風は確か「中道」であった事を記憶しております。寺に嫁した私は図らずも、全くその精神と共に生きて参りました。

と申しますのは仏教の精神がまさしく「中庸」であるからなのです。近頃の世相は目も耳も覆いたくなる様な出来事ばかりです。品物も情報も溢れている社会の中で自分に最もふさわしいものを正しく取捨選択して、自分と家族と、強いては社会全体を保持してゆくのが、私共の大切な課題と思われれます。大リーグで活躍中のイチロー選手のス

その安定した活躍振りは、目を見張るばかりです。過日開いた雑誌の巻頭に偶々イチロー選手のの記事が掲載されておりました。その中の質問で「座右の銘は」？の問いかけに即座に「準備」と答えていたという話が印象に残っております。あのしなやかな身体で、いとも簡単そうにヒットを打ち続けて記録を更新している姿は天性のものとは思えないのですが、実は試合が終ると同時に、大切なバットの手入れをし、シューズの泥を払って更に磨きをかけ、今日の反省を

して明日の試合に生かす、当り前の事の積み重ねが、今、あのイチロー選手の成績となって現われているという事を私達は感得すべきことと思います。日々忙しくも単々とした生活の中で、日本大学の卒業生であることの自信と誇りを持って、更に校友会の仲間が居るという安心感を持って精進してゆき度いと思っております。

校友会の皆さまの御健康と、会のますますの発展を心よりお祈り申し上げます。

国際関係学部校友会に集う



国際関係学部校友会副会長
国際関係学部同窓会会長

宮下 公雄

卒業から早20年数年、国際関係学部の名前その物が目新しく感じた時代は、今は昔となり、国際関係その物がより身近に感

模索の日々が続きます。在校生、卒業生の我々もこれまで以上の努力、創意工夫が必要とされる時代が来ております。

卒業から早20年数年、国際関係学部の名前その物が目新しく感じた時代は、今は昔となり、国際関係その物がより身近に感ずる時代になりました。ここ数年、政界や経済界は不透明になり、世界政治においても日本の立場は不安定で難しい時代に突入致しました。こうした状態が一挙に解決する見込みもなく暗中

本校校友会も、佐藤学部長、柴田校友会会長など多くの三島同窓会の諸先輩の皆様のご尽力を頂き、年を追うごとに充実した校友会に発展しております。最近では、卒業後様々な分野

で活躍する面々も国際関係学部同窓会に集い、政治家、会社経営、大学の職員、研究者、編集者、ソムリエそれぞれ各分野のプロフェッショナルとして活躍する方々と貴重な意見の交流が持てる様になって来ております。

自らも、20数年前、中国語を選考しながら4年間の学生生活を淡々と過ごし、現在ではそのつけとも言うべく、仕事の上で、英語 フランス語で、悪戦苦闘する日々が続いております。あの頃、もう少し勉強しておけばと後悔の念にかられる事もあります。

唯一、在学時代、語学留学と称し、1980年台前半、中国交正常化わずか10年で、中国に40日間、語学留学させてくださった恩師の先生方の、本学の「クレド」とも言うべく情熱は、今の仕事、生活すべてに影響を与え、世界の見方をより身近に変えてくれ、現在でも何者にも勝る宝となっております。現在、学外の我々は中々現国際関係学部の様子を伺い知る事はできませんが、日本大学国際関係学部のホームページを閲覧する事により、最近の国際関係学部の動向を知る事ができます。海外からの留学生の受け入れ、市民講座の開設、地域社会に根

ざしたエクステンション講座、学内の専門研究所など、新しい方向性に根ざした大学運営へと著しく変貌しております。また、即戦力になるビジネススマン養成も大切な大学教育の一つになって来ております。

日々生活に追われ、学生時代を振り返ることもなく、社会においてより重要な役割を背負う年齢に達して来ている我々校友会の面々ですが、是非とも時間の許す限り同窓会に出席していただき貴重なご意見をいただければ幸いです。

更に、国際関係学部ホームページ、トップページの左下には、同窓会ページのエンタランスも開設されておりますので、同窓会に参加できない方も是非とも、ご一報いただければと思います。これから在校生、卒業生皆様のご尽力で、国際関係学部発展の為に校友会として寄与して行きたいと存じます。今後とも、校友会会員の皆様方のご指導をお願い申し上げます。



校友会会長賞受賞者



国際文化学科四年

太田 孝一

三年前の春、私は大きな希望を持って入学しました。大学生になったら何かを最後まで成し遂げたい、そのような気持ちで文化会執行部に入部しました。

一年次には広報局の一員として先輩方に一つ一つ教えてもらいながら仕事の内容を覚ええました。各部活の活動中の写真を撮り、広報誌を作成するという仕事に熱中しました。この時、執行部の仕事は各部活の協力の基に成り立っているということを学びました。初めての富桜祭では今までの人生の中で経験したことのない感動を受けました。

一つの目標に向かって仲間と協力し合い、挑戦することに私の求めているものを見出しました。二年生では広報局長になり、後輩の育成に力を注ぎました。自分が一年生の時に何を感じ、

何を学んだかを伝え、局長という立場を越えて後輩と話をする時間を多く持ちました。

三年生では執行部委員長として各部活の取りまとめと推進を行いました。二年間の集大成として、今までの経験を生かし、最高の組織を目指しました。組織の中心として物事を進めていく難しさ、責任の重さを実感しました。また組織を運営していく上で、相手の意見をよく聞き、自分の意見をはっきりと伝え、納得のいくまで話し合うことを心掛けてきました。

この文化会執行部によって私の大学生活は成り立ち、充実したものになったと思います。先輩・後輩・友人と出会うだけでなく、教職員の方々と交流する機会を得ることができ、多くの事を学びました。これらのことを忘れずに日々精進していきたいと思います。私を支えてくれた仲間達、教職員の方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。



国際交流学科四年

穴戸 馨

私が経験してきた学生生活で、もっとも充実した時間をすごせたのはこの三島キャンパスで過ごした四年間でした。その四年間の中でも私は「日本拳法」・「体育会執行部」この二つに情熱を傾けました。

日本拳法部は私に様々なことを経験させてくれました。武道の基本精神といえる「礼」や逆境に負けない精神力など、これらを学び実践していく中で、多くの道徳心を磨くことができました。現在、私と同世代の若者たちの常識のなさが叫ばれる中、このような経験は私を成長させてくれました。

そして、精神的に私を成長させたのが部活動なら、多くの人と出会い様々な行事を運営していく中でリーダーシップなどを得ることができたのは体育会執行部での活動でした。

体育会執行部の活動は、大学



国際交流学科四年

山川 俊雄



国際関係学科四年

高巢 幸喜

めてもらっていた友人からの助言で、部の停滞を招いている原因が自分自身にあると気がつくことができた。私は、口ばかりで行動が伴っていないだったのである。そしてリーダーとして当たり前のことを、あまりに軽視しており一人被害者気分になっていたのである。

この経験が、団体行動の中における自分の役割を再度考える機会を与えてくれた。団体行動とは、一人では到底できないことを仲間と団結することによって実現可能にするのであって、リーダーの役割とは、皆の力を目標の実現の為に集積することにあると。私は、友の助けのおかげで自己を客観的に見る必要性を以前にまじって感じることで、そして常に現状の問題点は何なのかを徹底的に考え、行動に移す重要性を心に刻むことができた。

この経験を通して得た教訓は委員長を退いた今でも、空気のよさに私を包んでいる。大局をみて、自己を知る。そして今何をすべきか、それを考える。与えられた課題をこなすだけでなく、自ら課題を発見する。人に評価してもらおうと思うのではなく、自らの価値基準を自分の内に立てる。今後もこの教訓を忘れることなく、社会の中で活かしていきたいと真に思う。

ましたが、それには多大なスキルを要す為、実際のところどこまでそれが出来たのかはわかりません。しかし、そのようなメンバーで作った第五十三回富桜祭が一人万人を超えるお客様にご来場して頂き、あいにく天気には恵まれなかったものの、大きな事故もなく成功というカタチで終えることが出来たのは、未熟な私をサポートしてくれた仲間たちの存在であってこそのことであると思っています。

私の最も尊敬する先輩が言っていた言葉があります。「人は人間関係に一番悩み、人間関係が一番助けられる」。正直そうだと思います。良い思い出ばかりではないのですが、そのような経験をも良い思い出にさせてくれたのは一年時から共に富桜祭実行委員会として励ましあってくれたユリ子、コーゼンを始め多くの人に助けてもらった所が大きいのです。

今年も間もなく第五十四回富桜祭が開催されます。私も後輩たちの成長ぶりを楽しみに富桜祭当日を皆さんと一緒に待ちたいと思います。

最後になりましたが、仲間たちには改めて、そしてお世話になった先生方、学校関係者の方々、地域住民の方々、そして私を三島へ送り出し、見守ってくれた両親に心から感謝いたします。ありがとうございました。

からの連絡を各部活動へ連絡するパイプ的な役割や新入生歓迎会など各行事の企画・運営など実に多岐に及びます。この委員会では委員長として活動しましたが、常に挫折の連続でした。一つの組織をまとめるということは、リーダーシップ・コミュニケーション能力・思考力・知識等非常に多くのスキルを必要としては悩み、そのたびに仲間を助けられました。私がこの組織を運営していく上でもっとも大切にしていくことは「親しき仲にも礼儀あり」という言葉です。委員長という立場上先生方や、部長さんなど多くの方と仲良くさせていただきましたが、個人的な感情が入ると不公平な対応になってしまいます、そこで私は特定の部活に利益が出てしまう活動は決して行いませんでした。このような対応ができたのは各部活の方や、委員会の仲間が私を理解してくれ、その中で培った信頼関係が生んだ結果だと思っています。このようにして築いた人間関係は私の宝物になっていくと思います。

最後になりますが、私を温かく見守ってくれた沢山の方に感謝し、その期待を裏切らぬようこれからは社会に出てがんばっていききたいと思います。

この原稿を書いている大学四年生の夏、始めて大学のある三島でなく実家で過ごしている私は「大学生の夏はこんなにも長いのか」と思い、自由な時間をどう使おうかと、毎日が時間との会話の連続です。というのも、私は大学の三年間を文化祭実行委員会に所属し、夏といえばスポーツサー集め、タイムテーブル作り、緊急マニュアル作り、そして他局の手伝い……もちろん友達とビリヤードをやったり、飲んだり、時には時間を忘れて朝まで話をしたりと、忙しいながらも、とても有意義な時間を過ごしていたからです。

今になって思い出すのは私が委員長をしていた大学三年生の時のことです。私の委員長としての悩みは「温度差」でした。つまり実行委員それぞれのモチベーションの違いということです。やる気のある人、部室でマンガばかり読んでいる人、部室に顔を出さない人：私は実行委員全体の温度差をなくす（皆が一つの方向を向いてがんばる）よう努力してき

平成 15 年度 事 業 報 告

- 1 国際関係学部校友会会長賞授与
平成15年度日本大学国際関係学部在学学生から、次の者が国際関係学部長から推薦された。
 - ・校友会会長賞（副賞：記念品）は、国際関係学部3名に贈られ平成16年3月25日の卒業式当日、ホテルパシフィック東京において授与式が行われた。
 - ・校友会会長賞（副賞：奨学金）は、国際関係学部4名に贈られ4月3日開講式当日授与式が行われた。
- ①校友会会長賞（副賞：記念品）
平野文星（国際ビジネス情報学科4年） 小澤有礼（国際ビジネス情報学科4年）
大野達男（国際関係学科4年）
- ②校友会会長賞（副賞：奨学金）
太田孝一（国際文化学科3年） 穴戸 馨（国際交流学科3年）
高巢幸喜（国際関係学科3年） 山川俊雄（国際交流学科3年）
- 1 日大スポーツ02
1,400部を平成15年4月国際関係学部・短期大学部（三島）各学科の新入生全員に対して入学祝として渡した。
- 1 会報発行
会報34号を平成15年11月3日付け12頁3,000部を発行した。
- 1 各科同窓会等補助
国際関係学部同窓会・桜栄会並びに大学の体育会及び箱根駅伝応援に補助した。
- 1 常任幹事会
平成15年7月25日（金）17時30分から、国際関係学部8号館2階において開催した。
- 1 幹事会
平成15年7月25日（金）18時30分から、国際関係学部8号館2階において開催した。
- 1 総会並びに懇親会
平成15年11月3日（月）16時から、三島グランドホテルにおいて開催した。
- 1 箱根駅伝応援
平成16年1月3日（土）復路スタート応援地点で応援した。また、平成16年1月2日（往路）3日（復路）の両日、国際関係学部体育会ダンス部が箱根で応援に花を添えた。

平成 15 年度 収 支 決 算 書

（平成 15 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日）

（単位：円）

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	項 目	予 算 額	決 算 額	差 額
奨 学 費	420,000	411,811	8,189	会 費 収 入	6,678,000	6,213,000	465,000
日大スポーツ購入費	420,000	420,000	0	雑 収 入	2,000	359,722	△ 357,722
校友会会報発行費	200,000	200,025	△ 25	預 り 金 受 入 収 入	0	0	0
国際関係学部同窓会分配金	2,448,000	2,316,000	132,000				
桜栄会分配金	390,000	366,000	24,000				
各科同窓会等補助	200,000	90,000	110,000				
学生団体補助	400,000	200,000	200,000				
総会並びに懇親会	700,000	672,677	27,323				
会議会合費	200,000	301,253	△ 101,253				
通 信 費	100,000	129,320	△ 29,320				
事務 費	300,000	257,336	42,664				
雑 費	300,000	764,250	△ 464,250				
本部校友会会費	470,000	450,000	20,000				
予 備 計	100,000	0	100,000				
	6,648,000	6,578,672	69,328	計	6,680,000	6,572,722	107,278
基 金 繰 入 額	0	0	0	基 金 繰 出 額	0	7,100,000	△ 7,100,000
次 年 度 繰 越 金	32,000	7,262,411	△ 7,230,411	前 年 度 繰 越 金	0	168,361	△ 168,361
(前 受 金)	(0)	(0)	(0)				
(繰 越 金)	(32,000)	(7,262,411)	(7,230,411)				
支 出 の 部 合 計	6,680,000	13,841,083	△ 7,161,083	収 入 の 部 合 計	6,680,000	13,841,083	△ 7,161,083

貸 借 対 照 表

（平成 15 年 3 月 31 日現在）

（単位：円）

借			万 金	貸			万 金
項 目	通 期	預 金	額	項 目	通 期	預 金	額
普 通			32,262,411	基 金			25,000,000
定 期			0	前 年 度 繰 越 額			(32,100,000)
				本 年 度 繰 入 額			(△ 7,100,000)
				次 年 度 繰 越 額			(7,262,411)
				前 年 度 受 金			(0)
				繰 越 金			(7,262,411)
合 計			32,262,411	合 計			32,262,411

基 金 の 内 訳

（単位：円）

項 目	前 年 度 繰 越 額	本 年 度 繰 入 額	合 計
校 友 会 事 業 基 金	25,000,000	0	25,000,000
国際関係学部校友会加盟基金	7,100,000	△ 7,100,000	0
計	32,100,000	△ 7,100,000	25,000,000

平成 15 年度収支について、関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしました。記帳その他正確であることを認めます。

平成 16 年 月 日

会計監査 染 谷 徳 昭 ㊞
宮 川 守 ㊞

平成 16 年度 事 業 計 画

- 1 国際関係学部校友会会長賞授与（副賞：記念品もしくは奨学金）
日本大学国際関係学部及び短期大学部を平成17年3月卒業・4月進級の予定者を対象とする。
 - ・校友会会長賞並びに記念品 国際関係学部 4年卒業予定者 各学科1名
短期大学部 2年卒業予定者 各学科1名
 - ・校友会会長賞並びに奨学金 国際関係学部 各学科2・3年生 各学年1名
短期大学部 各学科1年生 各1名
- 1 日大スポーツ03
1,400部を平成16年4月国際関係学部・短期大学部（三島）各学科の新入生全員に対して入学祝として渡す。
- 1 会報発行
会報35号（平成16年10月30日付）12頁 3,000部。
- 1 各科同窓会等補助
 - ①各科名簿編集の推進及び各科同窓会行事に対する補助。
 - ②大学体育会・文化会に対する補助。
 - ③箱根駅伝応援に対する補助。
- 1 常任幹事会
平成16年7月10日（土）16時から、三島グランドホテルにおいて開催する。
- 1 幹事会
平成16年7月10日（土）17時から、三島グランドホテルにおいて開催する。
- 1 総会並びに懇親会
平成16年10月30日（土）16時から、三島グランドホテルにおいて開催する。
- 1 箱根駅伝応援
平成17年1月3日（月）復路スタート応援地点で応援する。また、平成17年1月2日（日）往路ゴール応援地点及び平成17年1月3日（月）復路スタート応援地点で国際関係学部体育会所属（ダンス部）の学生が応援に参加する。

平成16年度 収支予算書

(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

(単位:円)

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額	項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額
奨 学 費	420,000	420,000	0	会 費 収 入	10,773,000	6,678,000	4,095,000
日大スポーツ購入費	450,000	420,000	30,000	雑 収 入	4,589	2,000	2,589
校友会報発行費	200,000	200,000	0	前 受 金 収 入	0	0	0
国際関係学部同窓会分配金	4,755,000	2,448,000	2,307,000				
桜 栄 会 分 配 金	786,000	390,000	396,000				
各科同窓会等補助	300,000	200,000	100,000				
学 生 団 体 補 助	500,000	400,000	100,000				
総会並びに懇親会費	800,000	700,000	100,000				
箱根駅伝応援補助	150,000	0	150,000				
会 議 会 合 費	300,000	200,000	100,000				
通 信 運 搬 費	150,000	100,000	50,000				
事 務 費	400,000	300,000	100,000				
雑 費	650,000	300,000	350,000				
本部校友会会費	470,000	470,000	0				
予 備 費	200,000	100,000	100,000				
計	10,531,000	6,648,000	3,883,000	計	10,777,589	6,680,000	4,097,589
基 金 繰 入 額	0	0	0	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金	7,509,000	32,000	7,477,000	前 年 度 繰 越 金	7,262,411	0	7,262,411
(前 受 金)	(0)	(0)	(0)				
(繰 越 金)	(7,509,000)	(32,000)	(7,477,000)				
支 出 の 部 合 計	18,040,000	6,680,000	11,360,000	収 入 の 部 合 計	18,040,000	6,680,000	11,360,000

平成 16 年度役員

任期 (H16.4.1 ~ H18.3.31)

役 職 氏 名 在学年度

会 長 柴 田 正 (41・42)
副 会 長 高 田 菊 平 (36)
副 会 長 山 田 浩 子 (41・42)
副 会 長 小 早 川 隆 義 (42・43)
副 会 長 山 崎 光 義 (44・45)
副 会 長 板 垣 和 代 (36・37)
副 会 長 相 田 信 次 (44・45)
副 会 長 宮 下 公 雄 (54~57)
幹 事 長 田 中 由 雄 (42・43)
常任幹事 関 野 幹 雄 (48・49)
(庶務担当)
常任幹事 関 野 浩 二 (57~61)
(庶務担当)
常任幹事 弓 場 重 明 (44・45)
(庶務担当)
常任幹事 野 田 正 人 (62・63)
(会計担当)
常任幹事 金 田 豊 (23~25)
常任幹事 白 鳥 義 仁 (25・26)
常任幹事 田 村 実 (26・27)
常任幹事 鈴 木 義 樹 (28・29)
常任幹事 角 田 義 廣 (30・31)
常任幹事 中 島 敏 男 (30・31)
常任幹事 市 川 紀 子 (36・37)
常任幹事 久 保 田 勝 (38・39)
常任幹事 佐 野 勝 己 (39・40)
常任幹事 土 屋 忠 得 (40・41)
常任幹事 土 屋 貞 明 (42・43)
常任幹事 渡 辺 忠 昭 (42・43)
常任幹事 林 田 孝 二 (43)
常任幹事 岩 崎 一 雄 (43・44)
常任幹事 山 口 良 児 (43・44)
常任幹事 平 岩 美 知 子 (44・45)
常任幹事 鈴 木 正 八 (44・45)
常任幹事 久 保 田 博 明 (45・46)
常任幹事 榎 本 睦 美 (45・46)
常任幹事 西 野 和 衛 (46・47)
常任幹事 江 本 博 勝 (46・47)
常任幹事 遠 藤 晶 子 (47・48)
常任幹事 沼 上 博 美 (48・49)
常任幹事 大 島 裕 二 (52・53)
常任幹事 露 木 ひ ろ み (53・54)
常任幹事 斎 藤 聡 (54~57)
常任幹事 守 野 敏 也 (55・56)
常任幹事 木 村 貴 美 和 (55~58)
常任幹事 小 松 徳 弘 (56~59)
常任幹事 稲 葉 桂 子 (60・61)
常任幹事 久 保 和 之 (63・元)

常任幹事 廣 岡 達 郎 (元~4)
常任幹事 藤 澤 博 隆 (3・4)
常任幹事 明 石 浩 一 (5~8)
常任幹事 山 瀬 匠 (8・9)
常任幹事 渡 邊 孝 哉 (9・10)
幹 事 高 田 日 出 太 郎 (21)
幹 事 萩 野 新 一 郎 (21)
幹 事 馬 場 康 夫 (21・22)
幹 事 清 好 一 (21~23)
幹 事 石 垣 義 親 (21~23)
幹 事 小 野 真 一 (21~23)
幹 事 澤 直 和 (21~23)
幹 事 滝 川 昇 (22・23)
幹 事 高 橋 文 吉 (22・23)
幹 事 堀 井 佳 勇 (22・23)
幹 事 勝 村 一 男 (22・23)
幹 事 筏 元 (22・23)
幹 事 中 島 知 之 (22・23)
幹 事 溝 口 梅 男 (22・23)
幹 事 中 濱 卓 弥 (22~24)
幹 事 中 塩 利 雄 (22~24)
幹 事 北 條 晃 (22~24)
幹 事 長 田 涉 (22~24)
幹 事 山 内 茂 (22~24)
幹 事 川 口 正 信 (22~24)
幹 事 小 林 昭 雄 (22~24)
幹 事 甲 木 康 夫 (22~24)
幹 事 木 村 幸 夫 (23~25)
幹 事 小 林 栄 三 (23~25)
幹 事 勝 俣 敏 充 (23~25)
幹 事 森 下 菊 美 (23~25)
幹 事 播 本 弘 (23~25)
幹 事 長 谷 川 駿 一 (23~25)
幹 事 徳 増 清 二 (23~25)
幹 事 石 野 進 (23~25)
幹 事 石 垣 恭 弘 (23~25)
幹 事 井 上 忠 彦 (23~25)
幹 事 細 田 昭 次 (23~25)
幹 事 杉 山 吉 房 (23~25)
幹 事 服 部 房 夫 (23~25)
幹 事 浅 海 武 夫 (23~25)
幹 事 芦 澤 克 治 (24・25)
幹 事 石 川 進 (25・26)
幹 事 矢 澤 知 秋 (25・26)

幹 事 長 倉 祐 作 (25・26)
幹 事 宮 崎 茂 樹 (25・26)
幹 事 辻 省 二 (26・27)
幹 事 光 信 儔 (26・27)
幹 事 浅 原 好 胤 (26・27)
幹 事 高 橋 英 明 (26・27)
幹 事 荒 川 通 (26・27)
幹 事 岩 永 勉 (26・27)
幹 事 塩 田 浩 (26・27)
幹 事 大 井 徹 也 (26・27)
幹 事 稲 葉 昭 (26・27)
幹 事 熊 崎 文 二 (26・27)
幹 事 輿 水 啓 一 (26・27)
幹 事 廣 田 均 (26・27)
幹 事 栗 原 恒 夫 (26・27)
幹 事 後 藤 守 雄 (26・27)
幹 事 黒 滝 祐 司 (27・28)
幹 事 小 林 義 尚 (27・28)
幹 事 田 村 栄 一 (27・28)
幹 事 関 本 文 彦 (27・28)
幹 事 真 部 喜 孝 (27・28)
幹 事 結 城 勇 一 (27・28)
幹 事 土 屋 仁 (27・28)
幹 事 長 沢 龍 助 (27・28)
幹 事 佐 々 木 凱 男 (27・28)
幹 事 川 崎 一 成 (27・28)
幹 事 丸 山 富 美 男 (28)
幹 事 坂 詰 正 衛 (28・29)
幹 事 望 月 知 林 (28・29)
幹 事 安 東 安 生 (29・30)
幹 事 田 嶋 文 義 (29・30)
幹 事 寺 崎 哲 郎 (29・30)
幹 事 関 哲 男 (29・30)
幹 事 林 田 達 郎 (29・30)
幹 事 森 伸 夫 (30・31)
幹 事 道 見 俊 廣 (30・31)
幹 事 小 野 武 (30・31)
幹 事 宮 尾 昌 介 (30・31)
幹 事 菅 修 (30・31)
幹 事 馬 場 妙 子 (30・31)
幹 事 屋 鋪 公 平 (30・31)
幹 事 堀 幸 男 (30・31)
幹 事 根 岸 元 宏 (31・32)
幹 事 加 藤 三 洲 (31・32)

幹事	菅江 稔 (2・3)	幹事	松本佳代子 (5・6)	幹事	渡部浩司 (31・32)
幹事	明石知恵美 (2・3)	幹事	古屋美帆 (6・7)	幹事	大村日出雄 (32)
幹事	川原浩孝 (3・4)	幹事	渡辺さゆり (6・7)	幹事	甲田知由 (33)
幹事	小野和彦 (3・4)	幹事	小林昌子 (7・8)	幹事	杉本直志 (33)
幹事	坂口聖剛 (3・4)	幹事	春原昌子 (7・8)	幹事	吉野洋一 (35)
幹事	今川高宏 (4・5)	幹事	山崎幸恵 (8・9)	幹事	鈴木 肇 (35)
幹事	町野智彦 (5・6)	幹事	佐野隆子 (9・10)	幹事	御供政紀 (35・36)
幹事	古泉典彦 (6・7)	幹事	成島敦子 (9・10)	幹事	小澤文郎 (36)
幹事	池田昌史 (8・9)	幹事	星 美保子 (10・11)	幹事	大西良雄 (37)
幹事	成田伸行 (8・9)	幹事	工藤美咲 (10・11)	幹事	小川武司 (37)
幹事	松岡功之 (9・10)	幹事	萩野谷 肇 (41・42)	幹事	多田清太郎 (37)
幹事	高橋美鶴 (41・42)	幹事	上田定義 (41・42)	幹事	坂口正剛 (37)
幹事	石黒栄美子 (42・43)	幹事	加藤久貴 (46・47)	幹事	小石川宣照 (37)
幹事	菊地千尋 (43・44)	幹事	秋山稔明 (46・47)	幹事	谷崎邦昭 (38)
幹事	神戸絹代 (47・48)	幹事	前田正文 (47・48)	幹事	勝亦 誠 (38)
幹事	堤 令子 (52・53)	幹事	野田 栄 (47・48)	幹事	栗山康雄 (39)
幹事	中澤小雪 (53・54)	幹事	多田清吾 (47・48)	幹事	杉田朋昭 (39)
幹事	齋藤裕子 (53・54)	幹事	辻本真由美 (51・52)	幹事	両角 勇 (42)
幹事	押見恵美子 (54・55)	幹事	浜田順二 (53・54)	幹事	濱田義之 (45)
幹事	船石圭子 (54・55)	幹事	吉川浩司 (54・55)	幹事	高藤省三 (49)
幹事	中澤由利子 (56・57)	幹事	藤島 昇 (55・56)	幹事	滝本 博 (53)
幹事	佐伯絵里子 (56・57)	幹事	遠藤真弓 (57・58)	幹事	岩崎尚枝 (41・42)
幹事	小澤里佳子 (57・58)	幹事	後藤幸江 (58・59)	幹事	小永井京子 (43・44)
幹事	深津久美子 (57・58)	幹事	露木みどり (59・60)	幹事	高橋真理子 (44・45)
幹事	田中恵子 (58・59)	幹事	長澤裕子 (59・60)	幹事	石井千枝子 (46・47)
幹事	鈴木敦子 (59・60)	幹事	中村由美子 (61・62)	幹事	松村啓子 (51・52)
幹事	武藤さゆり (59・60)	幹事	南 まり子 (3・4)	幹事	佐野有美 (52・53)
幹事	塩崎朝子 (60・61)	幹事	岩酒文子 (3・4)	幹事	大塚久子 (52・53)
幹事	稲葉桂子 (61・62)	幹事	小池恭子 (4・5)	幹事	宮島満里 (53・54)
幹事	小島みちよ (62・63)	幹事	白川美保 (5・6)	幹事	武田裕美 (55・56)
幹事	大須賀美穂 (63・1)	幹事	小柴慶子 (6・7)	幹事	勝亦幾代 (56・57)
幹事	櫻田智栄美 (63・1)	幹事	津田正克 (50・51)	幹事	北川早苗 (56・57)
幹事	三宅理砂子 (63・1)	幹事	後藤善夫 (52・53)	幹事	山崎睦子 (57・58)
幹事	野上 香 (1・2)	幹事	北島 薫 (52・53)	幹事	高野直美 (58・59)
幹事	羽田真理子 (2・3)	幹事	加藤喜章 (53・54)	幹事	阿部昭子 (59・60)
幹事	高田香世子 (2・3)	幹事	鈴木理平 (54・55)	幹事	神田留美子 (60・61)
幹事	望月ゆりか (4・5)	幹事	内野祥司 (55・56)	幹事	松本由恵 (62・63)
幹事	小澤知子 (5・6)	幹事	藤井裕嗣 (56・57)	幹事	白石 忍 (63・1)
幹事	原田 愛 (6・7)	幹事	杉山勝行 (57・58)	幹事	渡辺陽子 (1・2)
幹事	西山志保 (6・7)	幹事	金城三十二 (58・59)	幹事	阿久津敦子 (2・3)
幹事	白井里枝 (8・9)	幹事	鈴木文量 (59・60)	幹事	小川真弓 (3・4)
幹事	佐藤美幸 (10・11)	幹事	武井直子 (60・61)	幹事	片柳容子 (3・4)
幹事	村山景子 (11・12)	幹事	土佐谷泰子 (61・62)	幹事	菅野紫乃 (4・5)
幹事	宮下正俊 (39・40)	幹事	峯岡智裕 (63・1)	幹事	秋山陽子 (4・5)
幹事	菅沼 弘 (39・40)	幹事	田伏正和 (元・2)	幹事	小林智子 (4・5)
幹事	中山義昭 (41・42)	幹事	名雪しげみ (元・2)	幹事	片倉亜希子 (5・6)

幹事 井上明子(9~12)
幹事 徳田瑞希(9~12)
幹事 斉藤真規(10~13)
幹事 長岡福也(10~13)
幹事 上西智史(10~13)
幹事 筒井靖子(10~13)
幹事 杉山祥啓(10~13)
幹事 渡辺 梓(10~13)
幹事 大津留真紀(10~13)
幹事 園部真子(12・13)
幹事 長谷川郁子(11~14)
幹事 松下夏葉(11~14)
幹事 竹腰真裕子(11~14)
幹事 後藤暢宏(11~14)
幹事 竹村 直(11~14)
幹事 清水真由美(11~14)
幹事 小森美雪(11~14)
幹事 若月朋子(11~14)
幹事 杉野美紀(11~14)
幹事 齋藤久美絵(11~14)
幹事 川村友江(11~14)
幹事 猪狩博織(11~14)
幹事 鈴木さや夏(13・14)
幹事 川下知恵(12~15)
幹事 鹿内隼人(12~15)
幹事 齋藤慎亮(12~15)
幹事 山本克幸(12~15)
幹事 楠本幸貴(12~15)
幹事 平野文星(14・15)
幹事 小澤有礼(12~15)
幹事 大野達男(12~15)
会計監査 染谷徳昭(42・43)
会計監査 宮川 守(47・48)
顧問 西村満男(21~23)
顧問 西村美枝子(22~24)
顧問 中嶋信行(23~25)
顧問 奥田吉郎(23~25)
顧問 瀬川一男(23~25)
顧問 渡辺勝一(26・27)
顧問 見上勇逸(27・28)
顧問 鈴木邦良(27・28)
顧問 石川貞夫(28・29)
顧問 小椋貞夫(28・29)
顧問 平井千枝(34・35)
参与 中濱卓弥(22~24)
参与 渡辺洋子(35・36)
参与 岩崎一雄(43・44)

幹事 南 敦子(2~5)
幹事 門脇正朋(2~5)
幹事 藤原誠吾(2~5)
幹事 前田智也(2~5)
幹事 坂井利彰(2~5)
幹事 小田純子(2~5)
幹事 田辺裕司(2~5)
幹事 沼尻正則(3~6)
幹事 平野靖雄(3~6)
幹事 若松はるか(3~6)
幹事 三宅大介(3~6)
幹事 清水 健(3~6)
幹事 小塚達郎(3~6)
幹事 金枝あや(3~6)
幹事 紅林美智子(3~7)
幹事 伊藤 敦(4~7)
幹事 佐藤治夫(4~7)
幹事 千野琢磨(4~7)
幹事 杉山文予(5~8)
幹事 江島照美(5~8)
幹事 武藤千鶴(5~8)
幹事 鈴木優子(5~8)
幹事 室伏寛美(5~8)
幹事 田尻美三(5~8)
幹事 青木 徹(5~8)
幹事 沖倉保宏(6~9)
幹事 今川 慶(6~9)
幹事 田中智康(6~9)
幹事 久芳 仁(6~9)
幹事 植松信二(6~9)
幹事 小林寿成(7~10)
幹事 望月雅子(7~10)
幹事 斉藤美根子(7~10)
幹事 瀬瀬健太郎(7~10)
幹事 大越久美子(7~10)
幹事 佐竹 篤(7~10)
幹事 高島寛幸(8~11)
幹事 正木創一(8~11)
幹事 関根大助(8~11)
幹事 井上善史(8~11)
幹事 登ヶ谷祐人(8~11)
幹事 金子浩二(8~11)
幹事 早乙女桂子(8~11)
幹事 成田哲浩(9~12)
幹事 八木美由紀(9~12)
幹事 清水大督(9~12)
幹事 川合貴子(9~12)

幹事 渡辺 清(42・43)
幹事 赤池哲也(42・43)
幹事 吉田 力(44・45)
幹事 長倉良幸(44・45)
幹事 早川清文(45・46)
幹事 三枝和彦(46・47)
幹事 勝間田多住(47・48)
幹事 天野寿一(48・49)
幹事 瀬川 宏(48・49)
幹事 上原豊和(52・53)
幹事 西家勝彦(52・53)
幹事 藤本文彦(52・53)
幹事 埜村光伸(53・54)
幹事 児玉豊一(53・54)
幹事 勝呂千明(53・54)
幹事 高須是行(54・55)
幹事 鈴木啓太郎(54・55)
幹事 遠藤日出夫(37)
幹事 渡辺博夫(37)
幹事 江川 洋(42)
幹事 藤幡俊量(46)
幹事 松原裕二(54~57)
幹事 大沼百合子(54~57)
幹事 平野雅之(56~59)
幹事 福田勝弘(56~59)
幹事 三浦 仁(57~60)
幹事 高野 誠(57~60)
幹事 梶 敬(57~60)
幹事 森田克彦(58~61)
幹事 佐上菊仁(58~61)
幹事 高橋 徹(59~62)
幹事 横溝泰蔵(59~62)
幹事 山田竜作(60~63)
幹事 土田洋二(60~63)
幹事 桑原健治(60~63)
幹事 伊藤かおり(61~1)
幹事 増原伸一(61~1)
幹事 五十嵐公喜(62~2)
幹事 花井幸二(62~2)
幹事 犬塚重暁(63~3)
幹事 野口 厚(63~3)
幹事 佐藤淳悦(1~4)
幹事 高橋博樹(1~4)
幹事 工藤典子(1~4)
幹事 長谷川哲夫(1~4)
幹事 村上東洋男(1~4)

校友会だより

国際関係学部校友会



国際関係学部校友会

一、平成十四年度決算報告

一、監査報告

一、平成十五年度事業計画(案)

一、平成十五年度予算(案)

一、役員改選の件

一、本部校友会報告

一、各科活動報告

一、その他

田中由雄幹事長から、平成十四年度事業報告がなされ、続いて平成十四年度決算報告が野田正人常任幹事会計担当から報告、宮川守会計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。

続いて平成十五年度事業計画(案)及び平成十五年度予算(案)について審議され、承認された。

役員改選の件については、平成十六年三月三十一日付けで現役員が任期満了となるが、校友会本部との関係もあり、再任ということで承認された。再任に伴い、事務局より昭和五十四年度から各学科で三島同窓会長賞を授与された者について幹事として一三〇名を推薦したい旨の提案があり承認された。

本部校友会報告では、柴田正会長から本部主催の年間会議の報告。各科活動報告では、清好一幹事より予科会、西村美枝子顧問より学泉寮の報告がなされた。

その他として、本部校友会への正会員加入促進の情宣活動をお願いし閉会とした。

議長には弓場重明常任幹事、副議長には多田清吾幹事、書記には渡邊孝哉幹事が選出され、次の議事が審議された。

一、平成十四年度事業報告

総会終了後、会場を移し懇親会を開催した。田中由雄幹事長の司会で進行され、柴田正会長挨拶の後、来賓挨拶として牧野富夫副総長・田中英壽校友会本部長の祝辞があった。来賓紹介の後、今村忠雄法学部校友会会長による乾杯のご発声で懇談に移った。西村美枝子経済学部校友会副会長の音頭で校歌斉唱、木村幸夫幹事の指揮のもと応援歌となり、宮下公男副会長により万歳三唱で閉会となった。

国際関係学部同窓会

平成十五年十一月二十二日、第二十回国際関係学部同窓会総会・懇親会が東京都市ヶ谷にあるアルカディア市ヶ谷にて開催されました。平成十一年の総会から三島と東京で交互に開催することになって以来、三度目の東京会場となりましたが、約六十名の卒業生や来賓の先生方が集い、和やかな会となりました。

総会では、会長挨拶の後、会計報告が行われ、同窓会費の徴収方法に関する説明と同窓会ホームページについて審議されました。

また、写真撮影に続いて行われた親睦会では、国際関係学部長佐藤三武朗先生の挨拶、鈴木弘文事務局長による乾杯の後、懇談に移りました。

当日は、来賓の先生方にキャンパスライフや授業についての懐かしい思い出話をして頂くとともに、参加した同窓生の近況報告など、終始和やかな雰囲気では進行し、会員同士が久々の再会を分かち合い、互いの近況を報告しあっている光景が至るところで見られました。

(文責 園部)

桜栄会

桜栄会では、毎年会報「桜栄」を発行しております。今年度は、三九号を平成十六年三月二十日に発行し、九、二二六名の全会員に郵送いたしました。当番期の方々を中心に作成し、特色ある会報をお届けできたことと思います。

平成十六年六月十三日(日)には、第四四回総会・懇親会が三島グランドホテルで行われ、総会で年間行事報告、会計報告などを行いました。また、杉山佳代氏をお迎えし、大変華やかな演奏会が催されました。引き続き行われた懇親会は、四期・一四期・二四期・三四期の当番期を含む約五十名の会員、佐藤三武朗国際関係学部長をはじめ恩師の先生方や、国際関係学部校友会からの来賓をお迎えして、なごやかな会となりました。

(文責 芳地)



桜栄会



国際関係学部同窓会